行政視察報告書　　建設経済環境委員会　　　2018年7月31日(水)

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　11番　石井通春

|  |  |
| --- | --- |
| 視察先 | 千葉県野田市 |
| 研修テーマ（調査項目） | 移動販売車「まごころ便」　地域間バス「まめバス」 |
| 1. 調査内容をどう評価するか   ＜まごころ便＞  ・生協「パルシステム」千葉が独立採算制度で行い、市が移動販売車両のリース費用と運営費用の一部を助成して行っている。（平成29年10月末でリース期間が終了し再リースとなり、それ以降は運営費のみの一部補助）  ・市内（人口は藤枝市とほぼ同じ）3コースに37か所のステーションを設け、各地週2回は巡回できるようにしている。ほぼ市内全域だが、交通網等が発達している駅周辺は除かれている（既存店舗300メートル以内に鄭州所は設けない事もある）  ・平成27年度に停留所を大幅改定、他地区との比較で利用者が一人でもいるところで廃止もあり、さじ加減が難しい。でも、見直しは必要である（コンビニ出店で激変する）  ・2トン車を利用（軽ワゴンではない）700種類程度の商品が販売できる。途中での補充も可能である（生協にて）実物は見なかったが、車内で商品を選びながら買い物ができ、車内で精算できるとの事。常温、冷蔵、冷凍の3温度が設定できる  ＜まめバス＞  ・2バス事業者による委託。（ただし人件費の高騰で上限1億円の補助事業化。平成31年より）  ・平日117便、休日91便。31年計画から従来の75便、38便から大幅増便。運賃100円均一   1. 本市に反映できると思われる点   ＜まごころ便＞  ・赤字でありながら事業が続けられる点が最大の関心ごとであったが、従来生協の店舗が数多くあり、そこの会員が多くおり閉店を実施するにあたらい組合員を説得する一つの手段として「まごころ便」が導入された経緯があった。  ・生協としても、自社をカラーリングした販売者が市内を動き回る事でアピール効果を重視し赤字でも実施しているとの理由（一日販売額57000円が赤字黒字のボーダー）  ・競争入札としているが、年間310日稼働、赤字を承知してやる業者は生協以外ない  ・選んで買える楽しみ（注文したひなを届けるとか一つの商品しかないのではなく）は2トン車なら実現できるとの事。途中でなくなっても補充ができ、週2回なので磁界に届ける事も出来る（生協の店舗を利用する）この点は可能ではないだろうか  ＜まめバス＞  ・業界の運転手不足による委託（市）側の立場が弱くなる点は野田も同様であったが、その点の解消策は行政としては持ち合わせていないようであった。  ・リースによる車両所有も視野に入れないと、金額ばかりかかってしまい赤字黒字だけで論じられることになってしまうのではないか。   1. その他（感想・意見） | |